

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名：湘南医療大学
所 属：大学院
名 前：望月 千夏子
作成日：2026 年 4 月 22 日

1. 教育の責任

本学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念の基、専門職業人を育成している。私は、2024 年度から保健医療学研究科、保健医療学部看護学科に着任し、このような本学の理念を基盤とし看護学・助産学教育に携わっている。保健医療学研究科では、助産学演習、地域・国際助産学特論の講義を担当している。助産学演習では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の助産診断・助産ケアの実践に必要な助産技術を習得するための教育に携わっている。そして個人および集団を対象とした健康教育に必要な実践能力を養うために、健康教育の概念に基づいた企画、運営、評価をするための能力を養う教育に取り組んでいる。地域・国際助産学特論では、国内外の母子保健の現状と課題について理解を深め、母子保健における助産師の役割と母子および家族への支援を習得するための教育に取り組んでいる。保健医療学部看護学科では、母性看護学方法論の演習を担当している。母性看護学方法論では産褥期・新生児期のウェルネスを評価するために必要な看護技術を身に着けるための教育を行っている。さらに、ヘルスプロモーションという観点から周産期分野の学修を深めていくよう努めている。

私は、周産期分野に関わる看護師・助産師に求められている実践能力を強化するために、臨床現場と教育を統合させながら学習効果を高めることが使命であると考えている。また、生命の誕生に密接に関わる周産期分野では、ひとり一人の生命を尊重した関わりが大前提となるため、本学の理念を基盤とした教育活動を精進していくことが責務であると考えている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

一般的に「聞く」という言葉は“音や声を耳で感じ取る意で使用されることが多いが、看護者は、注意深く耳を傾ける「傾聴」する関わりが重要である。「聴く」とは“よく聞いて処理すること、注意して耳にとめること、傾聴すること”を意味する。「聴く」は、「耳を傾けて聞く」、「聞く努力をする」などの意味合いが含まれており、看護者には「傾聴する」態度を育成していくことが必要であると考えている。医療現場では、インフォームドコンセント（以下 IC と記載）を行うことが多い。「改訂版-看護記録用語辞典」では、IC とは“医療に関する正しい説明を受け、理解したうえでの自主的な選択・同意・拒否を意味する”と記されている。つまり IC には、医療者の説明に患者が同意を選択する一連のプロセスを看護支援と考えており、「傾聴」する関わりは、患者の意思決定権を尊重した IC を行うために必要不可欠である。

「生命医学倫理」では、①患者の考え、選択、行動を尊重する自律自尊の原則、②患者に害を与えないようにする無危害の原則、③患者の幸福や利益になるようにする仁恵の原則、④患者を平等に扱うことが基本原則とされている。教育者は、倫理的な活動を基盤とした医療現場でのコミュニケーションスキルとして、学生の「傾聴」する関わり

を育成することが求められていると考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私は、これまで助産学実習を通して学生と共に産婦の出産体験の振り返りに数多く関わってきた。出産体験は、幸福な一面と共に期待や予測・現実の不一致を体験することがある。例えば、分娩期はローリスクなケースにおいても、途中で緊急帝王切開となる場合があり、経膈分娩を希望していたけれど、断念することがある。このような状況に遭遇した産婦は喪失感や罪責感に悩まれるケースが少なくない。そのため、出産体験の振り返りは、産婦が母親役割を獲得するためのプロセスとして、出産体験を自由に語って貰い、学生は「傾聴」する関わり方を技術・態度という観点から学習を積み重ねている。

分娩は、女性が備え持つ生理的現象であるが、分娩を体験している産婦自身の心理的側面は一人ひとり異なる。産婦の個別性に合わせ、産婦にとって分娩が満足で肯定的な出産体験となるために、「傾聴」する関わり方を育成することを重視していきたい。そのため、前述した理念に至った。

3. 教育の方法・戦略

前述した教育の理念・目的を実現するために考えている教育の方法・戦略について述べる。

1) 現代の助産師教育が置かれている学習環境の概要

国際助産師連盟（International Confederation of Midwives：ICM）は、助産実践に必須のコンピテンシー（Essential Competencies for Midwifery Practice）」を2019年に改訂し、「Competency：実践能力」とは、最低限の知識、技能、専門職としての行動¹⁾であると示している。すなわち、助産師教育には安全・安楽な助産業務を遂行するための知識・技術、専門職として行動できる実践能力を習得させるが要求されている。しかしながら、現代の助産師教育が置かれている学習環境は、少子化・核家族化等から、妊娠・出産・育児に関わる機会が少ない状況にある。

このような助産師教育の学習環境を踏まえると、助産師教育にはシミュレーション教育を活用した学習方法の工夫が重要であると考えている。特に助産師に特化された内診は、分娩進行の診断に係わる重要な実践能力であると共に、羞恥心や不安を抱きやすいため、内診技術のみならず傾聴する態度を養う場面設定を考慮した事例を用いてシミュレーション教育を導入している。

1) Essential Competencies for Midwifery Practice 2019 update. ICM 助産実践に必須のコンピテンシー2019年改訂（日本看護協会訳）

<https://www.nurse.or.jp/nursing/international/icm/basic/standard/pdf/kj->

以下、担当している助産学演習で実践している内診演習について取り上げ、教授方法、授業の工夫、開発した教材をについて述べる。

(1) 教授方法

事例とシミュレーション教育を組み合わせた演習の工夫

(2) 授業の工夫

4 時点の分娩進行状況想定した助産展開を学習後、4 時点の分娩進行状況想定したビショップスコアの観察法について演習する

(3) 開発した教材

分娩進行を観察する際に必要な外診所見・内診所見、母子の健康状態を判断するための検査等と傾聴する態度を統合させた事例の作成

2) 授業以外の学内・学外活動

(1) 実習委員

(2) 公益財団法人 全国助産師教育協議会 広報・社会貢献委員

(3) 一般財団法人 日本助産実践能力推進協議会 広報委員

(4) 公益財団法人 日本助産師会 世田谷区・目黒区分会 政策提言委員

(5) 令和 6 年度科学研究費助事業（学術研究助成基盤助成金）基盤研究 C

「中小企業の技能実習生のヘルスリテラシー育成プログラムの開発」研究分担者

4. 学習成果

1) 学生からの授業評価

2024 年度後期の授業は、オムニバスで授業担当した。科目責任者で担当した授業がないため、自身の授業について評価できない。

2) 公益社団法人 日本助産師会 世田谷区・目黒区分会 両親学級講師

【参加者からのアンケート結果】

- ・妊娠・出産・育児の実感が湧き、赤ちゃんを迎える準備ができた
- ・パートナーの身体の様子を相互チェックでき確認できることは大変貴重な機会となった

5. 改善のための努力

日頃から新しい教授法を取り入れるために、日本看護系大学協議会・全国助産師教育協議会、日本助産学会が主催する研修会に積極的に参加している。

6. 今後の目標

1) 短期目標

(1) 教育成果の評価方法を検討する。

授業評価アンケートのみならず、学生の反応を情報収集し、教育成果を分析する。

(2) 研究活動、地域母子保健活動に貢献する。

周産期分野に関連する研究活動を通し、学生に最新の知見を伝えることができるよう自己研鑽し、教育に活かす。

2) 長期目標

周産期分野に関する領域だけでなく、全領域を総合的に学習する教育に貢献する。